

自学感動

文責：生徒指導西海

見たいものしか見えない

いよいよ卒業式が明日になりました。三年生の本校での日々もついに最後となります。四月からは一人ひとりがそれぞれの道に進み、一二年生も新たな気持ちで次の春を迎えていくことでしょう。

今年度最後となる自学感動では、ユリウス・カエサルの言葉をもとに考えたいと思います。

普段自動車に乗って通っていても、気にも留めない飲食店の看板。ところがお腹がすいてくるとやたらと目につく。ウトウトしてたのに、授業の中でちょっとだけ触れたアニメやアイドルの話聞き逃さず、うっかりするとそれだけ覚えて授業の内容を覚えていない。こんなような経験はないでしょうか。人は目で見たいもの、耳で聞いたことを本当に見ていたり聞いていたりできているわけではありません。古代ローマの政治家ユリウス・カエサルは、「人は自分が見たいと思っているものしか見ていない」と言っています。人は意識的、あるいは無意識に自分に關心があり、自分に都合の良い情報に目を向け、自分の關心がないもの不快なものを見ないようにしがちです。目に情報として入ってくることと、それを「理解」することは別の行動なのです。目の前にゴミが落ちていても拾おうとしない人がいます。一つは面倒だから、自分がしなくてもいいと考えるから、もう一つはゴミが見えないから拾えないのです。「そんなことない」と思うかもしれませんが、「ここが汚れている」「ここが掃除していない」とよく指摘されているような人や、家事を家族にやってもらっていて、その大変さが「見えずに」文句を言っているような人があてはまるのです。

聞きたくないこと、見たくないことは自分の成長にとって必要なことだったり、緊急に対応しなければならないことであったりすることが多いもの。「なんでも見る」ためには、他人の言葉を素直に受け入れたり、好きではないものにも挑戦してみたりする勇氣が必要なのです。

時には自分の殻に閉じこもったり、避難訓練のように周りから隠れてみたりする日があってもいいのかもしれませんが、成長のためには自分が好きなこと、快適なことから離れ、不便で苦痛なことや、自分に対する厳しい指摘にも耳を貸さなければならないのです。

新しいステージに向かう君たち。物事を「見ようとする」姿勢を身につけてほしいと思います。



来年度にむけてのまとめをしよう

いよいよ学年のまとめの時期、竜王北中生としての卒業、そして先輩となる君たちが、竜王北中のよき伝統を受け継いでいってほしいと思います。では、伝統とは？

生活委員会も点検してくれましたが、まずは以下のポイント

下駄箱：しっかりと「かかと」がそろっていますか

机： 一列になっていますか

ロッカー：キチッと整頓されていますか

あいさつ：相手を見てハッキリとできていますか

集会での整列：リーダーの指示だけで整列できていますか

中学生としてふさわしいみなり：そのままの髪型、服装で入試にいけますか

朝読書：は生徒だけでも自然に始められていますか

下は昨年度以前の卒業生のころの写真です。もしまだのところがあつたら来年度を迎える前に身につけたいですね。



1年間ありがとうございました。

本校の生徒指導通信「自学感動」今年度は今回で最後となります。生徒指導主事として伝えたいこと、人として身につけたいこと、考えたいことを、月に一・2回のペースで気の向くままに書いてきたつもりです。人とのかかわりや自分の行動について、少し何かを考える材料になってくれていれば幸いです。来年度また気持ち新たに新『自学感動』が始まると思います。一年間「自学感動」ありがとうございました。



生徒指導主事 西海